



アフリカゾウのオスの「だいすけ」が、3月5日、秋田での31年の生涯に幕を下ろしました。南アフリカ共和国から一緒にやってきたメスの「花子」とともに、園の拡充・発展の立役者として、大いに貢献したゾウでした。子どもから大人まで多くの市民に愛された彼の生きた証を残すため、関わった飼育員と獣医師がその生涯を振り返ります。



だいすけの生涯

飼育展示担当 山上 昇

私がだいすけと出会ったのは、1992年4月、飼育員1年目でゾウのことは何ひとつ分からない新人の頃でした。当時のだいすけは、推定3歳で小さくてかわいい印象でした。

あれから28年間の長い付き合いとなり、苦楽を共にしてきました。だいすけは、臆病なところもありましたが、優しくおとなしい性格でした。

これまで、腹痛や牙の治療、体のケアを目的とした調教を小さい時から続けてきましたし、一緒に暮らす同い年の花子との相性も良く、誰にでも愛嬌たっぷりに接してくれるゾウでした。

お客さんに人気だったのが、アクリル板越しの小さな穴からエサを与えることができる「ゾウとはなスポット」(エサやり体験)でした。お客さんは、だいすけの迫力と器用にエサをとる鼻の動きにびっくりしながら歓声を上げて楽しんでいました。夏に行われる夜の動物園では、プールに入れられた大きなスイカを鼻ですくい上げ、おいしそうに一気に頬張る姿も人気でした。

そんなだいすけも年齢を重ねるごとに体に衰えが見られるようになり、特に2019年頃からは、体重を支える足のトラブルに悩むようになりました。日々のトレーニングで、爪や足裏を削って歩く時の負担を軽くしたり、患部にシップ剤を塗ったりとケアを行い、それに応えるように、だいすけも必死で頑張り続けました。

2020年10月下旬には、寝室で体調を崩し、ふらついているようで、壁などに体当たりする場面が見られました。食欲も急激に落ちてしまいましたが、だいすけの好物や園内にあるカシワやサクラ、ケヤキなどの枝葉を取ってきて与えたところ、ふらつきながらも一



来園時のだいすけと花子(1990年) 花子と仲良くスキンシップ♪(2011年)



距離が近い! ゾウとはなスポット(2017年)



圧巻のスイカ丸かじり(2014年)



トレーニングで足裏を削る様子(2018年)

生懸命食べてくれました。

また、動物園の近隣の方々のご協力で、笹竹をいただき食べさせたところ、よく食べてくれたので、この姿に飼育員も逆に励まされ、毎日新鮮な笹竹を取りに行きました。

しかし残念ながら、体の回復は一時的で、2021年3月5日未明にはついに倒れてしまい、午前9時28分、だいすけは天国へと旅立ちました。

だいすけの死後、ゾウ舎がとても大きく広く見え、その存在の大きさに改めて気付かされました。

だいすけが私たちに教えてくれたのは、最後まで諦めず生き続けるという強い気持ちと命の大切さでした。今は動物園を支えてくれただいすけに、感謝とお疲れさまでしたという言葉を送りたいと思います。

どうか、だいすけが大森山動物園で30年暮らしたことを忘れないでください。

そして、今までだいすけを支えていただいた多くの方々に御礼申し上げます。



だいすけの治療

獣医師 小川 裕子

私がだいすけの診療に加わったのは6年前の2015年からです。だいすけは花子と比べ^{せんつう}疝痛(腹痛)になりやすいゾウでした。年中疝痛で苦しんでいることはありませんが、気温の寒暖差が大きい季節の変わり目やエサの干し草が新しくなった時などは要注意でした。症状が現れるとすぐに治療を開始します。動物の治療は「保定9割技術1割」と言われるほど、動きのコントロールが重要で、治療は獣医師とゾウの扱いに慣れた飼育担当者の共同作業で行います。

若い頃のだいすけのカルテを読み返すと、来園時からの右後肢足根関節部(くるぶし部分)が少し内側へ曲がり変形していたこと、折れた右牙を麻酔下で除去していること(牙の一部を資料館に展示中)、前肢手根関節(人間の手首部分)が数回腫れたことなどが記録としてありましたが、カルテからは、元気いっぱいのだいすけの様子が読み取れます。

1993年から続いた右牙の除去と治療は、特に大変だったことが伝わってきます。最初は歯茎からの排膿^{はいのう}があり、診察の結果、牙のヒビが原因でした。歯科医にも協力してもらい2年かけて治療をしました。牙の除去ができなかった場合、炎症が全身にまわり死に至っていたかもしれません。当時の獣医師、歯科医、ゾウ担当みんなの努力がだいすけを救ったともいえます。

私が関わってからのだいすけは、右後肢足根関節部の変形が進行し、体重を支えるために反対側の左後肢への負担

も加わり、2019年10月からの治療は疝痛予防と関節炎の治療が主なものでした。

前号にも記載しましたが、2020年秋から状況が変わってきました。後肢に痛みがあるのか、精神的な不安なのか、だいすけが屋外展示場に出なくなりました。10月下旬の夜、よろけて後傾になり倒れそうになったことがありました。だいすけは体重が約5トンあるので、倒れて寝たきりになると、自らの重さで内臓が圧迫され、循環不全や呼吸不全に陥ります。よろけた時は、後肢を踏ん張り体勢を立て直しましたが、倒れてしまった場合の対策を講じることが急務となりました。倒れてしまったゾウはチェンブロックで吊り上げてあげると、再び立ち上がることがあります。普段から治療の相談をしている仙台市八木山動物公園から手動ウインチを、盛岡市動物公園からチェンブロックを借りることにしました。

だいすけは最後まで治療を頑張ってくれましたが、3月5日にバランスを崩し転倒してしまい、チェンブロックで吊り上げようとしていた矢先、残念ながら死亡してしまいました。

死亡後の剖検の結果、死因は多発性関節炎で立てなくなり転倒し、自らの重さが内臓を圧迫し循環不全を起こしたものでした。だいすけの体は、東京大学総合研究博物館に寄贈されています。将来、博物館に展示されることになった際には、頑張り屋だっただいすけに会いに行きたいと思います。



まんまタイムで果物をペロリ



2018年からのパートナー・リリー(右)と



亡くなる約1か月前のだいすけ



献花台にたくさんのお花をいただきました